

平成30年8月3日(金)

平成30年度 発達障害教育実践セミナー <第2分科会>

通常の学級と 通級指導教室との連携



伊万里市立 二里小学校
まなびの教室

松園 奈津子

「まなびの教室」は「LD・ADHD等通級指導教室」の通称です

連携がうまくいくように取り組んでいること

連携がうまくいっている状況とは

⇒ 子どもの周囲の環境がつながり合い、機能して、子どもが安心して前向きな気持ちで学習・生活ができる状況

1 アセスメントの情報や特別ルールของ共有

- ・学級担任の見立て、特別支援教育支援員の見立て
- ・検査等(客観的資料)から分かる認知特性と、学習・生活の場での姿の背景(裏付け)の確認
 - ⇒ 必要な支援⇒ 全職員の共通理解の場で周知
- ・年度当初の職員会議で、まなびの教室の周知、まなびの教室の担当として、また特別支援教育コーディネーターとして、予告なく授業中に教室に入ることがあること、給食を巡回して食べることを予告。(子どもの教室での様子を知るため)

連携がうまくいくように取り組んでいること

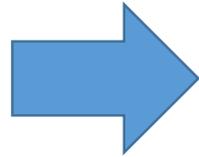
2 本人の思いと担任や保護者の願いから、頑張りポイントをしぼる (通常の学級・通級指導教室で共有)

- ・あれも、これもでは、子どもも大人も疲れてしまう
⇒子ども自身に将来の自分の姿(イメージしやすい少し先)を聞く
- ・ちょっとした頑張りで届きそうなゴールの示し方をする
⇒初めからみんなと同じゴールを示すと気持ちが折れる
⇒小さな「できた」を積み重ねる
- ・課題の出し方
⇒量の調節は甘やかしではなく本人に合わせた必要な支援
(「これならできる」という量・質は子ども自身が分かっていることもあるので
本人と交渉する。)

学級担任から見た通級指導教室

学校生活で現れる子どもの課題

- ・提出物を出さない
- ・休み時間のトラブルが多い
- ・自分の役割を果たさない
- ・学習でのつまずき
- ・できないわけではないけれど、しようとしていない
- ・意欲の低下



- ・提出物を出す
- ・休み時間のトラブルがなくなる
- ・係りや委員会活動の仕事ができる
- ・テストの点数が上がる
- ・しなければならぬことをきちんとする

クラスみんなと同じことができるようになる

次々に現れる課題をなんとかしたい(してほしい)

⇒「まなびの教室」に行けば、子どもが変わる…。

通級指導教室

生きにくさや学びにくさを抱えた子どもたちが、自分のことを知り、自分の願いをかなえることをサポートする教室

「まなび
の教室」
に行けば

アセスメントをもとにした必要な支援を、個別の場や小集団の場、学級(学校生活の中)で行うことができるので

子どもが
変わる

↓
連携を通して

「どうしたらいいでしょう」から「なぜ、そうするのか」へ